



岩櫃城は岩櫃山(標高 802.6 m)の中腹東面に築かれた中 世の山城です。戦国時代から江戸時代初期の城跡で、武田氏 の時代は上杉氏の侵攻に備える前線基地として機能し、真田 氏の時代は上杉氏、後北条、徳川といった巨大勢力に挟まれ た真田氏の領国経営の拠点として機能しました。頂上より約 200 m下がった場所に本丸・二の丸・中城があり、この場所 を中心に広い範囲を城域としています。また、近くに2つの 支城、北東側に柳沢城と岩櫃山南側に郷原城を持っています。

通称番匠坂を東端とし、西側は本丸のある中心地から距離に して 400 mほど行った所を端としています。この東西を両 端とする北東方面へ 1.9km 延びる尾根線上に主たる遺構が あります。南側は切沢の谷を自然の堀にして南西の境とし、 南東側は岩櫃山の山裾の斜面を壁面として、さらに吾妻川を 自然の堀に活用したと考えられます。北側は不動沢が境界線 となっています。

東吾妻町役場

(一社)東吾妻町観光協会

〒377-0892 群馬県吾妻郡東吾妻町原町1046 TEL.0279-68-2111 FAX.0279-68-4900 http://www1.town.higashiagatsuma.gunma.jp/

〒377-0801 群馬県吾妻郡東吾妻町原町627-2 TEL.0279-70-2110 FAX.0279-25-7135 http://www.tohgoku.or.jp/~aysk/

岩櫃山平沢登山口観光案内所 〒377-0801 群馬県吾妻郡東吾妻町原町1965-2 TEL.0279-26-7088(4月~11月)

武田氏、 真田氏の 史舞台。 の三名城

中でも特にすぐれた八ヵ所は吾妻八景と呼ばれ、 馬県の西部に位置する吾妻の地は自然景勝に富み 広く観光客などに親しまれています。 多く の名所 旧跡が点在しています

トル)は吾妻八景を代表する景勝地として知られてい

この山の中腹に吾妻の歴史舞台となった岩櫃の城跡があります 東吾妻町の北東にそびえる岩櫃山 (標高八〇二・六メー

ます。

岩櫃城跡

東吾妻町



本丸下に延びる長大な竪堀。幅も広く、規模の大

岩櫃城 岩櫃城は、 0)

歴史

岩櫃城落城伝説

貞和五年

(一三四九)、

ときの城主は吾

敵は里見義時(兵庫とも

その子孫が戦国時代までこの城を本拠と 杉憲顕氏の支援によって岩櫃城を奪回 伝説があり め (斉藤越前守憲行) して東吾妻を支配しま 南北朝のころ築城されたと考えら 城郭の規模は一三六診と上 年代は定かではありませ その後行 おいて自害したとい 城主として最初に 盛の 里見氏に攻

奮戦しましたが、 守憲広 (基国) 盛より数えて六代目の吾妻太郎斉藤越前 を命じました。 侵略のため、 ました。こうして岩櫃城は武田氏の手中 信玄は幸隆に吾妻郡の守護を命 家臣真田幸隆に岩櫃城攻略 ときの城主は吾妻太郎行 ついに落城してしま 武田信玄は上州 堅城を利して

本丸下の鉤の手状に折れる竪堀。折れを設けるこ

とで高い防御力を有する。

城として吾妻郡統治の 田城主となりました。 び真田氏の支配下となり、 代をこの城で過ごしたと言われています 岩櫃城主には長子の信綱が収まりました 天正十八年(一五九〇)、北条氏が滅亡し、 度北条氏の支配下に置か 信幸が支配し、信幸の弟幸村も少年時 幸が相続しました。その後、 戦死したため、 天正二年(一五七四)に幸隆が世を去り 長篠の戦いで信綱、 真田家は幸隆の三男 岩櫃城は沼田の支 中心地としての 信幸は初代沼 れた沼田は再 昌幸の 昌輝兄弟

き自らの首を切り、

対岸めがけて投げつ

ました。その首を祀ったのが首宮明神

(現在の川戸神社)

で、

岩井地区にある長

切り立原河原の露と消えま

した。このと

した。行盛は大石にとび上がり腹をか

敵陣を突破

吾妻川立石河原へ出

:と行

盛は討って出

東側斜面を下

はやこれ

れ

西の木戸と対応し、城下町の東端を固めてい

「東の木戸」

ラマの舞台となった岩櫃城も の叔父矢沢頼綱が城代となり、 (西軍) と信幸 百余年の長い歴史を残 ました。このとき岩 (一六〇〇)、 城令(元和元年 関ケ原の (東軍) は敵味 幾多の 櫃城は昌 戦い 家康が

の御殿

(赤岩登山口近くに潜龍院跡とし

を三日間で造りました。

の南側に勝頼を迎えるため

ある根津潜龍院と称して明治に

七年にその護摩堂が原町顕徳寺

頼を迎え入れ、

武田の再挙を図ること 真田昌幸は岩櫃城に

立場に置かれていたことも十分に推測さ 岩櫃城は戦乱の舞台として時代の中心的 のときに勝頼が吾妻に赴いていたならば

た。昌幸は急ぎ帰

ます。

急造された御殿は昌幸の

一族で

軍議の席上、

織田・徳川の連合軍に攻められていま

年 (一五八二) 三月、

武田勝頼

わず天目山で自刃してしまいました。

田

勝頼を迎えようとし

た御

殿

潜

龍院

「上州我妻郡岩櫃古城之図」

料としては極めて少ない中の1つ。

このほかに西面図があり、岩櫃城に関する文献資

(長野県立歴史館所蔵)





長福寺の五輪塔 中央が吾妻太郎の墓で両隣が夫人と臣下の墓と言わ れている。

「槻の木から子持岩を望む」 原町市街から子持岩がまつすぐに見通せ、槻の木と を結んだ直線を町割りの起点としたことがよくうか がえる。

だと言われています 福寺の五輪塔(町指定史跡) が行盛の墓

岩 櫃 區城破却

国

わ 1)

(一六一四) に城下の平川戸 よるところが大きいと考えられますが 付近から貯水池付近)に市が立ち、 人出があったことを徳川家康が不審に 時代の文献によると、 慶長十

岩櫃城が壊されたのは一 (現在の登山 城令に 九年

を壊 思つ たことを知 った真田 信幸

櫃山 といい 割りの起点を原町の東端にある 移転したといわれています。 (原町の大ケヤキ)」(国天然記念物)と岩 中腹の子持岩を結んだ直線上とした し城下町を観音原(現在の原町) このとき 「槻の 岩櫃城 に 木



標高 593m に立地する東西約 140m、南北約

35m の主郭を中心として、岩櫃山から東へ延び

る4本の尾根上に、広域的に曲輪を配置するなど、

その規模は群馬県内の中世城館でも最大規模を誇

る。25m × 15m の建物の土台状の遺構があり

展望台、指揮台を兼ねての中枢部と考えられてい

現在の本堂は一部修復してあるが、明治当時のもの。

岩櫃城本丸址

